

横路福祉社会会報

〒七三七〇一三三
 呉市広横路四丁目一四六
 横路福祉社会
 編集発行人
 神垣 伸司
 (0833)7118197

「69歳の誕生日」

社会福祉法人 横路福祉社会

理事長 神垣 伸司

月日の経つのは早いもので、理事長を引き受けて一年が過ぎようとしています。横路保育所は、この8月で創立以来、69年を迎えます。安定した保育所運営ができたのも、これも、ひとえに地域の方々のご支援とご協力のたまものと、暑くお礼申し上げます。

さて、ここ最近の保育所を取り巻く環境は大きく変化しています。平成24年「子ども、子育て支援法」の施行を契機に、平成26年にその運営基準、そして平成29年には、改正社会福祉法が施行され、本年の4月1日から新保育指針（保育士の義務や保育所の社会的責務等の役割の明確化、養護・教育に関して「ねらい」と「内容」を充実させ一体的に展開）が施行されるなど、正に、保育所や幼稚園を取り巻く環境は、激流の渦の中に巻き込まれています。

全国一斉といえども、なんと先の見えないことか・・・しかし、横路保育所は、保育所生活の中で子どもたちに豊かな経験を準備し、生きる力の基礎を培い、小学校以降の生活に繋げていくという本来の保育方針は変わりません。

先般の役員研修の中で、保育という仕事は、多種多様な出来事にその場で対応を迫られ、とりあえず目先のことをこなすというこの連続になりやすく、気が付いたら1日が、1週間が、1年が過ぎていた。そして、「こうやると泣き止んだ」「こうしたら食べた」と方法や結果に捉われた保育をしていないかと疑問が提起されていました。

よく考えたら、子どもたち一人ひとり顔が異なるように性格も異なる。しかし、画一的な保育の実践は、その枠からはみ出た子どもをダメな子、出来ない子と決めてはいないかと自問自答した1日でした。

そして、帰りの車中で

※「みんなちがって みんないい」

と金子みすずの詩を思い出しました・・・

※「私と小鳥と鈴と」の一節

平成 30 年度 第 1 回役員会・評議員会

去る5月24日役員会、6月14日評議員会を開催し、平成29年度の事業内容と事業決算について審議の上承認されました。
 詳細（事業内容・財務諸表）はホームページ上で公開していますのでご覧ください。

平成 29 年度事業報告書

1・事業の概要

- 乳幼児の保育は、子どもの健全な心身の発達や人間形成の基礎を培う重要なものとして、日々の保育生活の中で「生きる力」の基礎を育成するように努めている。
 まず、日々の体操、散歩やマラソンを通じた体力向上、また、異年齢児との合同ゲーム、給食や掃除のお手伝い当番をすることにより、忍耐力や思いやりの心の醸成を図った。年長児は、本年度から月刊誌を購入し、毎朝、本に向き合う時間を設けることで、集中力を養うとともに、自主的に数字や字に対して興味を持ちチャレンジすることができた。
 絵本会は、クラス別や全体の本の読み聞かせを計画的に実施し、併せて、絵本だよりを発行し本の貸し出しを行う等、本と触れ合う機会を増やした。また、本年も国際大学生ボランティアの協力を得て、食育に関する絵本会を開催する等、学生との交流を通じた創造性の芽生えと集中力の養成につなげた。
- 情報公開については、法で定められた基準以上に積極的な情報公開を行い、公明正大な保育所運営に努めた。また、閲覧図書コーナーでは、義務付けられている公開文章を始め、個人情報には留意しながら自己評価や詳細な苦情内容等も公開した。
- 「食育」は、育ちの中でも大切な柱に位置付け、管理栄養士を配置し、自然素材を積極的に取り入れた園独自の調理を実施している。増加傾向にある食物へのアレルギー疾患児童に対しては、保護者からの聞き取りを基に管理栄養士・調理士・保育士が連携してこどもの状況を的確に把握するとともに、写真付き除去確認票で確認する等、事故防止対策に努めた。保護者に対しても、各行事の中で食育の大切さについての研修をする等、望ましい食生活のあり方に力を入れた。

平成 29 年度 事業報告書

1. 保育児童数の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
0才児	7	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	104
1・2才児	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	432
3才児	30	30	30	30	30	30	30	30	29	29	29	29	356
4才以上児	60	60	60	60	59	59	59	59	59	59	59	59	712
計	133	134	134	135	134	134	134	134	133	133	133	133	1,604
開所日数	24	24	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26	293

2. 一時保育利用者数(延べ人数)の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
3才未満児	116	156	179	167	132	156	211	202	189	199	199	238	2,144
3才以上児	4	10	13	15	24	13	2	0	0	0	1	1	83
計	120	166	192	182	156	169	213	202	189	199	200	239	2,227

3. 延長保育利用者数の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
(標)利用者	203	204	210	187	164	137	138	133	132	95	122	137	1,862
(短)利用者	2	2	2	2	6	3	3	4	12	6	11	11	64

平成 29 年度 社会福祉法人 横路福祉社会

単位:円

貸借対照表

平成 30 年 3 月 31 日

科目	金額	科目	金額
流動資産	29,260,214	流動負債	3,830,720
固定資産	150,242,210	固定負債	6,944,200
		基本金	9,325,625
		国庫補助金等特別積立金	35,108,075
		その他の積立金	82,950,000
		次期繰越活動収支差額	41,343,804
計	179,502,424	計	179,502,424

自 平成 29 年 4 月 1 日

収支決算書

至 平成 30 年 3 月 31 日

科目	金額	科目	金額
人件費支出	95,673,774	保育所運営費収入	131,602,604
事業費支出	15,328,074	受取利息配当金収入	125,001
事務費支出	25,373,272	その他の収入	170,040
固定資産取得支出	3,037,480	積立資産取崩収入	4,007,200
積立預金積立支出	6,580,800		
当期資金収支差額	△10,088,555		
計	135,904,845	計	135,904,845





「西日本豪雨災害」

保育士 原 智恵子

始めに、この度の災害により、被災された多くの皆様に、心より
お見舞い申し上げます。

平成30年、7月6日、数日前より降り続ける大雨に不安を感じな
がらも「きつと大丈夫」と、根拠のない自信で一夜を過ごしました。
そして朝を迎えた私は、テレビに映る惨状に言葉を失いました。

そこには、普段見慣れている街とは全く別の姿が映し出されてた
のです。そこで初めて事の重大さに気付いたのです。

日を追うごとに深刻な状況が身近になり、自分は何をしたら良い
のか考えていました。しかし、通勤に使える道は全て通行止め。職
場の園庭が膝辺りまで浸かり、所長、主任をはじめとする先生方も、
不安の中にありながら、早朝より出勤してくださり対処してくださ
いました。

保育所は臨時休園となり、先の読めない状態に戸惑う毎日でした。
私が出勤できたのは、災害から4日目。

断水が続く中、土砂にまみれた園庭や各倉庫の掃除等、暑さの中、
汗と泥にまみれ、懸命に作業する仲間の姿を見た時、皆無事だとい
う安堵感と感謝で胸がいっぱいになった事、忘れません。

職員も皆、不自由な生活を送る中、子どもたちを想い、力を出し
合いながら復行に向けて働いた事は、災難にありながらも、より結
束を深める事ができました。

また、その様な状況の中「保育所は大丈夫ですか?」「水を持って
来ましょう」と温かい言葉と支援してくださった保護者や地域の皆
様の気持ち、どれ程私たちを勇気づけ励まされたか分かりません。
この場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。
今回の災害を通し、毎日を無事に過ごせる事に感謝し、通常に戻
りつつある生活を大切にしていこうと思います。



7月7日 朝の状況



私の将来の夢は小さい頃から保育士になることでした。
子どもの頃、私に通っていた幼稚園の先生に憧れていました。その先生の周り
は、いつもたくさん子どもたちの笑顔と笑い声であふれていました。そんな
先生の姿を見て、私もいつか保育士になって子どもたちをたくさん喜ばせた
い、大好きな子どもたちに囲まれて仕事をしたいと思うようになりました。
高校卒業後の進路を決める時には、ためらわず短大の保育科を選択し、保育
について学びました。そして、横路保育所で保育実習をさせて頂き、何も分か
らない私に優しく声を掛けてくださり、ご指導をさせて頂きました。
短大卒業後、ご縁があつて横路保育所に勤めさせて頂くことになり、夢が叶
った喜びと不安が混ざり、保育士としての生活がスタートしました。
一年目は、何もかも初めての事ばかりで、毎日の流れについていくことが精一
杯で、本当にこれからやっていけるのかと不安と戸惑いの気持ちでいっぱい
でした。そんな中、優しく声を掛けてくださったり、サポートしてくださる周り
の先生方がいらっしやるおかげで、たくさん発見がある一年でした。
今年で三年目。より一層保育士である事の自覚と責任を持って行動しなければ
ならないと感じています。
まだまだ未熟な私ですが、いつか子どもたちの「憧れの先生」となれるよう
私自身も子どもたちと一緒に成長していきたいと思えます。そして、私が憧れ
だった先生に少しでも近づけるように精進していきたいです。



「憧れの先生」

入園式



地域交流 横路音頭

保育士 橋本 佳奈